

ワークショップのテーマ

①檜原村で暮らす上で、良いところ・困っていること

檜原村で暮らしていて良いと思うこと、これからも残したいこと

●自然環境

水がきれい×2。自然に囲まれて生活できる。自然に触れられる。古さと自然が残っている。自然が豊かなところ。空気がきれい。水と野菜がおいしい。野菜などの旬がわかる。

●人間関係

村民の人柄が良い×2。近所付き合いが良い。交友関係の幅が広がる。会いたい人に繋がしやすい。自治会が機能している。共助の力がある。守られてきた暮らしがある。親戚の結びつきが強く残っている。サークル活動などは充実している。

●利便性

都心へのアクセスが良い×3。車があれば、近隣で生活に必要なものがそろう。適度な不便さ。光回線が通っている。ネット注文で買い物ができる。ネット回線が早い。

●その他

お金が貯まるようになった。のんびりできる場所。

ワークショップのテーマ

①檜原村で暮らす上で、良いところ・困っていること

生活する上で困っていること、若い人が住み続けるには何が足りないと思うこと

●自然環境

野生動物が怖くて夜に散歩ができない。虫が多い、大きい。野生動物が近くにいます。畑をやるのに電気柵が必要。

●人間関係

移住してきた人や別荘に住んでいる人のうち、地域行事に参加しない人とどのようにかかわったらいいかわからない。地域の役が多い。村(地域)のルールがわからない。急な子どもの病気の時に預ける先がない。

●利便性

車が無いと不便×2。空き家はあるけど、賃貸で住める空き家が少ない×2。交通が不便。ガソリン代が高くなると困る。道路が通行止めになると困る。早朝に買い物できる場所があったらいい。ガス代が高い。

●その他

安定した収入を得られる仕事(勤め先)が少ない。新しいことに取り組もうとするときに、変化を起こすことが大変。常勤で働く場所が少ない。特になし。

ワークショップのテーマ

②若い人が住みたいと思う檜原村にするには？

●こんな場所、サービスがあったらいい

仕事の見つけ方の方法が少ないので、近隣の求人をまとめたものがあるといい。どこかの自治会をモデルケースとして、自治会と連携した空き家の流通というケースを作れるといい。移住者が暮らす上での相談ができるような人をボランティアで募集して、活用できるといい。移住者が気軽に相談できるような窓口や相談役(自治会長など)がいるといい。村内の習い事の移動支援があるといい。Uターン者への支援があるといい。賃貸住宅を探している人が多いので、賃貸住宅を充実させるといい。単身者向けの賃貸住宅が欲しい。村営住宅を増やして欲しい。

●こんな仕事、働き方があればいい

自然環境にあった仕事があるといい。リモートワークを推進する企業をワーケーションなどで誘致できるといい。仕事と住居がセットになったような暮らし(社宅)があるといい。

●こんな子育て環境があればいい

小中学生の頃に地元について知れるといい。中学生の部活動の選択肢が増えるといい。

●こんな情報発信があればいい

若い人がどのような生活をしているかの情報発信が必要。ありのままの暮らしが伝わるような情報発信をしてほしい。村で暮らすときのデメリットも発信してほしい。

●その他

若い人に対する地域の役割の期待が大きすぎるので、徐々に役割を担えるといい。アンケートを取ってほしい。(①今の小中学生と高校生に、檜原村に住み続けたいか。②今の小中学生の母親に、子育てが終わった後も檜原村にいたい。③20代、30代の女性に、出産後に檜原村にいたい。④20代、30代の男性に、結婚後に檜原村にいたい)移住者からは、子どもや高齢者ではない、働く世代への支援としてどのようなものが良いか聞けるといい。移住者を増やすこともいいが、今住んでいる人の支援も必要。村のファンになってもらう、2分の1村民や村内の商店での割引、メールマガジンなどを使い関係人口になってもらう、知ってもらう。